

帝慶山麓之邑名」とある。卯辰山八景の一に帝慶山の紅葉といふもこの地である。

**テイコウイン 貞光院** 七日市藩主第九代前田利以の夫人前田氏の法號。詳しくは貞光院心海龜月大姉。

**テイシツチセン 提室智園** 曹洞宗の僧。加賀の人。幾年豊隆に参し、その後を受けて大乗寺十一代に住し、承天寺八代を兼ね、大永二年雨を祈つて法驗があつた。天文五年四月二日七十六歳を以て寂。

**テイジュイン 貞壽院** 大聖寺藩主第九代前田利之の夫人酒井氏の法號。詳しくは貞壽院順空得妙禪定尼。

**テイシユウソウゴ 鼎州養話** ↓ホクカイシダン 北海肆談。

**テイシユバン 亭主番** 藩政時代に、金澤の亭主番は本町に限つて置かれたもので、晝夜を通じて任務に當り、安政元年には自身番と改稱した。夜番は地子町に於ける稱呼である。本町には木戸があるが、夜間に於けるその開閉は亭主番の掌る所であつた。亭主番は屋前に行燈を吊し、水桶と突棒を備へ、宵六つ時から曉六つ時までは、絶えず町内を巡邏し、その中一回は各戸の戸を叩きて火を警め、家人の答へるまでは止めない。町役人・能役者・武具職・醫師・法鉢人・病人・後家・少年・盲者等は、その當番を免除せられた。亭主番でも夜番でも巡邏の際は、隣家の者が副として之を助けた。武士町・門前地等では之に代へるに番之棒二人を常置してあつた。明治二年三月市政局は此等を廢し、更に二三町毎に輪之棒二人を置くことにした。輪之棒は前の番之棒と同じく、俗に之を番太郎と呼んだ。

**テイシヨウイン 暹正院** 加賀藩祖前田利家の側室になつた越前葛野坊圓福寺の女の法名。

**テイシヨウイン 真正院** 加賀藩主第十二代前田齊廣の側室加藤氏の法號。

**テイシヨウイン 貞昌院** 大聖寺藩主第四代前田利章の側室水越氏の法號。詳しくは貞昌院朴室祖原大姉。

**テイジヨウヤシキ 程乘屋敷** 金工後藤程乘は、寛文の頃隔年に京都から金澤に下り、藩の爲に製作に従うたが、その際蓮池園内作事場の遺址なる貸屋敷に逗留したので、その地を後に至るまで程乘屋敷といふた。蓋し是より先後藤氏諸工の來仕した際にもこゝに居たのであらうが、獨程乘の名のみが残つたものと見える。それをテンジヨウ屋敷であるとして、前田利長が支那人を置いた所とする説は信じられぬ。金澤に來た支那人は明の王子のみで、それは慶長六年前後のことであるが、王伯子にテンジヨウの名はなからう。併し王伯子の居館も亦蓮池園に在つたので、後の程乘屋敷と混淆せられることになつたものと見える。

**テイタン 泥炭** 石川郡の海岸地方に産する。津田鳳卿が天保十年の椋部考古遊記に、相河新村・徳光村・倉部瀬海の砂中に、淡黒の燒土で狀朽腐の木葉を粘するに似るものがあり、元文以來貧民採りて地爐に埋め、以て炭に易へた。その用石炭に類するとある。

**テイヨウ 提要** 七尾の俳人。涼風軒と號する。元祿十二年能登翁を著し、才應その序を作り、言水は跋を書いた。

**テイリシユウロク 貞里輯録** ↓ブンケン

ザツロク 聞見雜錄。

**テイリンイン 貞琳院** 加賀藩主第十代前田重政の側室山脇氏の法號。詳しくは貞琳院乾岳正秀大姉。

**テウラ 出浦** 長家家譜に天正六年八月長連龍が越前三國から發船して能登富來に上陸、穴水に押寄せた時、『孝恩寺出張月崎中居強盜塚新崎棚木鶴川屋波内浦出浦等、於所々迫合及數度。』とある。その出浦は今の鳳至郡北七海の地内であるといふ。

**テガハ 出川** 鳳至郡中(郡署名)の内の小字。

**テガハリ 出代** 藩政の時、一季居の奉公人出替の時期は初め二月二日であつたのを、萬治二年四月の觸によつて、來年より三月五日とすべきことを命じてゐる。これは幕令に違つたものである。江戸に伴うた奉公人に就いては、毎年相對で出替にせよと寛文八年正月の觸に在る。

**テガハリアシガル 手替足輕** 頭役又は役掛平士で、その部下に足輕・小者を有すべきものは、職務の種類によつて、別に足輕・小者數人の給料を藩から支給し、それだけの員數を雇備して公務に従事せしめた。之を頭分では、手替足輕・手替小者といふた。藩の記録に、組足輕何人、内小頭何人、外手替何人と記されてゐるものは是である。若し御郡奉行なれば、手替足輕といはずして被下足輕と呼んだ。藩の足輕を附屬せしめたのであらう。

**テキスイ 滴水** ↓ソウゲンテキスイ 曹源滴水。

**テキネバシ 手杵橋** 石川郡中宮の尾添川はもとと駕の渡しであつたのを、元和中前田利

常が命じて飛橋に改めしめた。それを側面から見ると、里人の用ひる杵の狀に似てゐるから手杵橋と名づけた。

**テキホイコウ 萩浦遺稿** 一冊。篠塚萩浦の作つた古詩・律詩・絶句を集め、著者の二十五回忌たる明治十二年に、その子不着の頒布したものである。

**テクチ 出口** 能美郡山上郷に屬する部落。加越圖詳記享祿四年十一月七日朝倉宗滴の加賀から納馬した條に、『小松の道秀・藤塚の二本・出口の齋藤・安宅の今井藤右衛門已下二千餘人大將に相從て來りける。』とある。又能美郡名蹟誌に、淺井合戦の後前田利長出口に砦を備へて山崎長門を置いたとするが、越登賀三州志にそれは二口村の誤であると論じてゐる。

**テグチヒロタダ 出口寛但** 通稱與三太夫。享保十八年父逸平太の遺知百三十石を襲ぎ、町同心として小松に居たが、寶曆六年逼塞を命ぜられ、明和七年六月十七日五十三歳で遂電した。後越前に行倒れて居たのを、一類預とせられた。

**テグチマサアキ 出口政陽** 通稱久兵衛。御歩小頭となつて新知百石を受け、文政中組外に列し、三十石を加へ、天保五年七十六歳を以て歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

**テグチマサノブ 出口政信** 通稱伊左衛門。甲州流の兵學者で、寶永二年閏四月三日歿した。或は長家の臣であるともいふ。その著に菅家見聞録がある。

**テグチヤイチエモン 出口彌市右衛門** 前田綱紀の時御歩となり、後組外に進み、祿百三十石に至つて三十人頭に任ぜられた。寶永